

コロナ禍をバネに、

飛躍の年へ

市長 米本 弥一郎



新年度が始まり、チーム旭市役所にも22人の新職員が加わりました。辞令交付式では、着慣れないスーツ姿と緊張した面持ちが、とても初々しく感じました。これから、地方公務員として高い志を持ち、大きく成長してくれることを期待します。

4月11日には小・中学校の入学式に出席しました。古城小では、新1年生の元気よく返事をする姿が、とてもほほ笑ましく、飯岡中では「この3年間で翼を広げて夢をつかみます」という新入生代表の力強い言葉が心に残りました。

私も市長として、旭市の将来を担う子どもたちを守り、その夢を全力で応援してまいります。

県警によると、小学1年生の交通事故は、入学して間もない4月～6月の登下校時に集中しているそうです。市民の皆さまには、子どもたち

の見守りにご協力をお願いします。

さて、5月8日から新型コロナウイルスが、感染症法上の5類へ移行される方針が示されました。これにより、季節性インフルエンザと同等の位置付けとなります。コロナ自体が無くなるわけではありませんが、少しずつ収束に向かっていると感じています。

私たちは、人とのつながりの中で生きており、人と人が支え合うことの大切さを、コロナ禍で改めて学びました。4年ぶりにステージイベントが行われた袋公園桜まつりでも、たくさんの方が訪れ、寄席や歌、ダンス、お囃子^{はやし}などをみんなで楽しんでいました。今後も、コロナ禍以前に勝るような交流やふれあい、まちの活性化を願って、感染の再拡大防止に努めながら、皆さまが楽しめるイベントの開催を目指します。